

我が国におけるベンチャー・スピリットの育成に向けて——SFC教育の役割

富田賢



私は現在、京都でベンチャーキャピタリストとして、将来性の高いベンチャー企業に投資をする仕事をしています。私はSFCの4期生ですが、転職をすでに2度経験しました。卒業後、外資系銀行に入社したものの、自分が本当にやりたいのは日本でのベンチャー企業育成だと思い、日本のベンチャーキャピタル(VC)に転職、その後、元上司が設立した米国型VCのメンバーの一人として加わりました。今私がこうしているのは、在学中にベンチャー企業育成について金融システムの観点から論文を書いたことがきっかけとなっており、SFCで学んだこと、考えたことが現在の私に大きな影響を与えています。SFCの卒業生はよく転職をするという批判の中、自分の信じる道を歩めているのは、SFCで自分の人生の行動指針を得ることができたからだと思います。

私自身が自分達で会社をやっていることに加え、仕事上、日々多くのベンチャー企業の経営者と接していることは、日本人の価値観が変わってきているということです。すなわち、日本では従来、大手企業に長く勤めることがよいとされていたため、高学歴な人ほど起業するということがありませんでした。しかし、最近、大手企業で十分なポジションを得られる人が自己実現のために、あえてリスクをとって起業する例が増えています。大手金融機関の

倒産等により、盲目的に組織に合わせても幸せになれるわけではないということに人々が気付き始めたのかもしれませんが。このようにベンチャー・スピリットを持った人が増えることは、日本の社会・経済の活性化のために非常に大切なことだと言えます。

制度面でも、政府の様々なベンチャー企業支援策や店頭公開基準・公開前規制の緩和、ベンチャー企業向け新市場の創設等により、米国同様、日本においても起業家利得が得られやすいように経済システムが転換してきており、起業が後押しされています。

今後、より一層起業を活発化させるにあたっては、リスクはあっても自己実現のために会社を興すというベンチャー・スピリットを人々の間に広めていくことが必要です。そのために最も重要なのは、ベンチャー・スピリットを醸成する教育であると私は考えます。事実、私自身も、SFCの先進的で、将来のあるべき経済システムを模索する教育を受けていなければ、今のようないことは出来ていないと思います。教育の力はやはり大きいと思います。

私はベンチャー企業育成に携わる者として、21世紀に向けて、SFCが日本の大学教育の改革を今まで以上に牽引し、ベンチャー・スピリットを持った人を一人でも多く世の中に輩出していってくれることを心より願っています。

For Spread of "Venture Spirit" in Japan——The Role of SFC's Education

TOMITA Satoshi

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 インベストメント・オフィサー

1997年総合政策学部卒業

VC及びベンチャービジネスに興味のある方は、s-tomita@fvc.co.jpにご連絡下さい。